聖地のこどもニュース

記切っつの記

No. **/6** 2020年 5月



元気いっぱい。ラマッラの子どもたち。

「水のタンクに穴を開けないで!!」

ヨルダン川西岸地区北部にあるカドゥム村。近くの街 ナブルスへの生活道が、分離の壁によって断たれる事に 定期的な抗議を繰り返しています。数カ月前からデモの度 に、イスラエル兵による嫌がらせが始まりました。民家の 屋上にある飲料水タンクがあちこちで銃で穴を開けられ てしまうのです。気がつくと、貴重な水が地面に流れ出し



写真 ISM Palestineより転載

ている! このような人権侵害はヨルダン川西岸地区のあちこちで行われています。

今年はイスラエル各地で異常気象。エルサレムでも連日39度、エイラトは57度越え!新型コロナウイルス禍で収入の道も閉ざされています。ミネラルウォーターは高価で購入もままなりません。感染症と異常気象に加えて、紛争がもたらす人権侵害。比較的安全な国に住む私たちに何ができるでしょうか? 理事長 井上 弘子

*水問題はイスラエル・パレスチナ紛争の重要なポイントになっています。 現在、ほとんどすべての水資源をイスラエルが押さえています。



認定NPO法人 聖地のこどもを支える会



これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック 2012」マークです。 JANICのアカウンタビリティ基準の 4分野(組織運営・事業実施・会計・ 情報公開)について当団体が適切に 自己審査したことを示しています。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 Email ispalejpn@gmail.com 回畑 03-6908-6571

で支援は… 郵便振替 00180-4-88173 INPO法人 聖地のこどもを すえる会

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

https://seichi-no-kodomo.org

〈アフター・コロナ〉に向けて、当 NPO は今

理事長 井上 弘子

皆様が小さな草の根活動の力を信じて、いつも温かく「聖地のこどもを支える会」をご支援して下さることに、心から感謝申し上げます。今日は、皆様の継続的なご支援へのご理解をお願いしたく、新型コロナウィルス感染拡大の渦中にある私どもの現状とこれからの活動についてお知らせいたします。

この未知の感染症は、あらゆる国々のあらゆる年齢、あらゆる職業の人々に深刻な影響を及ぼしています。NPO法人や人権団体の活動も例外ではありません。

当法人は、2019年度末(2020年3月末)までに皆様からいただいた支援金をまとめて、予定通り教育支援金とし2020年3月末に、エルサレムの〈学校学院のための連帯事務局〉に送ることができました。

しかしながら青少年国際交流事業は大きな痛手を受けました。今年3月予定の日本の学生のためのスタディー・ツアーは中止。航空券、宿泊など一切の手配をキャンセルいたしました。さらに今夏8月予定の3カ国の学生のための「平和の架け橋プロジェクト」も実施不可能と判断せざるを得ず、参加者の選出半ばで、断念いたしました。二つの事業の中止は当法人の運営にとり大きなダメージとなっています。現在、政府の雇用調整助成金および持続化給付金の申請を行なっているところです。

政府、地方自治体による外出自粛政策・緊急事態 宣言にも関わらず支援を続けてくださる皆様には 心から感謝申し上げます。2020年2,3月に「平 和の架け橋プロジェクト」のためにいただいた支援 金は、次回の青少年国際交流事業に使わせていた だきます。

当法人のこれからの活動

青少年国際交流事業

親しく会っての交流が難しい今こそ、できる活動に取り組んでいます。事業を始めて以来のプロジェクト、スタディー・ツアーの参加者(以後OB/OG)の絆を、インターネットを使って取り戻す試みです。



これまで当法人の交流事業に参加した3カ国の 青年たちは計約250人になります。参加の年や場 所こそ違え、共同生活とボランティア活動をとおし て、対話による相互理解と平和実現の道を模索す る体験をしました。参加者は、個人差はありますが 「平和の働き手」となりたいという志を持ち続け、 今でも親しく連絡を取り合っています。スタディー・ ツアーの際のホームステイやフレンドシップ・ミー ティングに協力を惜しまないなど、私たちとの心の 絆を保っている青年たちもたくさんいます。

そんな彼らが集まって「実行委員会」を作り、すべてのOB/OGに呼びかけて、同窓会をオンラインで開こうと計画しています。詳しい内容はまだこれからですが、コロナ後の世界を背負うイスラエル・パレスチナ、そして日本の若者たちが、絆を結び直し、再び手を携えて、小さな「平和への道」を進んでくれたら、これ以上の喜びはありません。

さらに年ごとの参加者の小さなグループでオンライン・ミーティングが時々開かれています。また、今年3月のスタディー・ツアーに出発できなかった希望者たちが、プロジェクトに参加以後国連や外務省で活躍する先輩の体験談を聴くミーティングも開催しました。来年3月実施計画中のスタディー・ツアーに向けて、イスラエル・パレスチナの青年たちをまじえたセミナーを開催する予定です。

コロナ禍が収束する頃には、若者たちの活動がさらに広がるよう、今後の展開にご注目ください。

教育支援事業

コロナウイルスによる社会的経済的混乱は、支援先の子どもたちの教育にも大きなダメージとなっています。雇用調整や休業・失業のため、収入が大

幅に減ったり、ゼロになったりした親が続出しています。公の助成金や給付金はほとんど無きに等しいものです。多くの家庭が子どもたちの授業料を払えないのです。現地支援の連帯事務局には、これからさらに多くの援助要請があると見込まれます。

この国の未来を担うのは子どもたち。私ども NPOは、彼らが一人でも多く勉学を続けることがで きるよう、活動を続けてまいります。皆様のご支援 こそ私たちの活動の原動力、当法人の運営そのも のをも支えています。

来たるべき"アフター・コロナ"の時代に、分裂と利己主義ではなく連帯と思いやりを大切にする「平和の担い手」を育てる活動に一層のご理解と援助を賜りますよう、お願い申し上げます。

ベツレヘムはコロナから守られました!

シスター・ララ(エッフェタ聴覚障害児学院)

新型コロナウィルス感染拡大のために、パレスチナ自治政府によって3月5日ベツレヘムに緊急事態令と外出禁止令が発令されてから3カ月経ちました。数日前にこの緊急事態令は解除され、少しずつ、少しずつ日常が戻りつつあります。もともとギリシャからの観光客(巡礼者)から感染したそうですが、ベツレヘム内での感染者は20~30人で済みました。 (*ヨルダン川西岸地区では、現在まで400人あまりの感染者が出ています。)

緊急事態宣言がある間はもちろん、大学や小、中、高のすべての学校、レストラン、ホテルなどあらゆる施設が閉鎖されていました。ベツレヘムは外からこれ以上ウイルスが入らないように外の世界とは完全に隔離された状態でした。人々はみんな初めからこの外出禁止令をしっかり守りました。

私たちの学校エッフェタも他の学校と同様に閉鎖されましたが、市役所のおかげで完全な消毒をすることができました。生徒たちは現在それぞれ家庭で過ごしています。

生徒たちの自宅学習を助けるため、いろいろな工夫をしました。1年生から4年生までは、SNS(メッセンジャー)を使って先生と生徒たちの間に連絡網を作り、授業の内容や宿題を発信しました。保育園児のためにフェイスブックのページが作られて、先生や言語療法士が保護者たちに子どもたちにどのように話すことを教えるか、手作りの教材を作ってビデオや写真を使って連絡を取りました。もちろん

耳が聞こえないという障害がありますが、生徒たちはみんな学習意欲が旺盛でよく協力してくれてほんとうに良かったです。それにこの困難な状況の中で、生徒たちがどれほど学校を愛し、また必要としているかが分かりました。

先生たちは、こうして距離があっても生徒たちの 学習が少しでも遅れないようにできる限りの手を 尽くしましたし、生徒たちも保護者たちもまた先生 たちの努力に一生懸命応えようとしてくれたのを嬉 しく思っています。

しかし、ベツレヘムは基本的に、生活の基盤を観光や巡礼に頼っているので、経済的にほんとうに大きな試練にさらされています。ホテルやレストラン、土産物店、クリーニング店など、観光に関わりあるすべての人々の収入の道は全くたたれてしまいました。またその他の業種の人たちも困窮度も増しています。

従って私たちの学校にも大きな問題が生じています。それは保護者たちが授業料を支払えなくなってしまったことです。

しかし、朗報もあります。コロナ感染者の最後の 3人が快復したこと、その後新しい感染者がいない ことです。

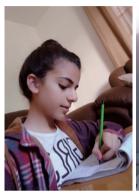
幸い私たちの職員にも生徒たちにも、家族たちにも感染者は出ませんでした。神様のおかげで彼らは守られました。

日本の里親の方から支援していただいている子

どもたちの大きくなった写真をご覧ください。

日本の皆様、これからも聴覚障害児のためのエッフェタ学院をご支援下さいますように、よろしくお願いいたします。

(エッフェタでは、原則として手話は教えていません。聴覚障害があっても、声帯に異常がなく発声できる児童には、赤ちゃんの時から発声訓練をし、読唇術を教えます。また人工内耳機能のチップを脳内に埋めています。手話のできる人が少ない社会で、なるべく普通のコミュニケーションをするためです。)











日本からの支援が届いているエッフェタ聴覚障害児学院の子どもたち 左から マイス・アンウォー・アワッド、サリ・アハマド・ファノウン、アリア・ムハマド・アル・ハジャジャ、クサイ・オダ、シェヘッド・ジアーダ

ある自閉症のパレスチナ人青年の死

ヤクーブ・ガザウィ(当NPO法人現地スタッフ、エルサレム聖墳墓教会首席オルガニスト)

先日アメリカで、ある黒人が不条理な死を遂げました。それに抗議する人々のデモが世界中で大きなうねりを見せています。実はイスラエルでも同じようなことが起きました。5月末エルサレム旧市街ステファノ門近くで、テロリストと間違えられた一人のパレスチナ青年がイスラエル国境警備隊に10何発の銃弾を撃ち込まれて殺されてしまったのです(注)。彼は自閉症でした。(実はこの事件について、イスラエルでも人種や信条を問わず、人権を大切に思う多くの人々が正義を求めてデモをしました。)

彼の母親の嘆きの言葉を聴いてください。

「あの子がどうして銃で殺されなければならないの? あの子はいつものように学校へ行っただけなのに!そのどこが悪かったの? もちろん警察は怪しければ彼を呼び止めて身体検査をして逮捕もできたでしょう。でもどうして銃を使って撃ち殺す必要があるの?なんてひどいことを! あの子は私のたった独りの息子なの、たった独りの……。あの子はほんとうに純粋で心のきれいな子でした。いつも天使のように私の心を喜びで満たしてくれたの

に… でもあの子はもういない!!|

私は通常このような事件に対してコメントしません。自分を全く無力に感じるからです。しかし今回の事件はあまりにもひどい! 私の心は動揺しています。このコロナ禍のなかで、事態はますますひどくなっています。恐怖心が暴力を呼び、暴力が復讐を呼び、復讐がさらなる暴力と憎悪を呼んでいるのです。いつこのような悪循環が終わるのでしょうか? 今日罪のない自閉症の青年が"誤って"殺されました。警察官が武器を持ったテロリストだと勘違いして、恐ろしくなって発砲したのです。

私は自閉症の人に関わったことがありますが、彼らはみんなとても心がきれいで優しく、人に害を加えようなんて全く考えもしない人たちです。世界がどれほど残酷かを見て、私の心は折れそうになっています。

イスラエル人とパレスチナ人、私たちはこの小さな土地を分け合わなければなりません。そのためには互いに相手を人間として受け止めなければならないのです。

政府と治安を率いる内務省がもう2度とこのようなことが起こらないように、そして社会の弱者、特に子どもや障害を持つ人々がもっと人道的に扱われるような対策を取ることを要求します。

もちろんどんな慰めの言葉もこの青年の両親の 悲しみを和らげることはできないと知っています。 それでも私は心からの哀悼の意を表し、彼が神の もとで永遠の安息を得ることができるように祈ります。そして彼が、この地にのみならず、この地に住む人々の心に平和と思いやりが与えられるよう、神に祈ってくれますように。

(注:イスラエル内務省は数年前から、警察官や治安部隊に、自分の身に危険を感じたらすぐに発砲することを許しています。)

コロナ禍、イスラエルの大連立内閣成立を後押し

村上 宏一(当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長)

世界中で人々の命を脅かし、経済活動にも深刻な打撃を与えてきた新型コロナウイルス。その災厄はイスラエル、パレスチナも例外なく襲いました。重要な宗教行事にも異変をもたらした一方、選挙を繰り返しては新政権づくりに失敗してきたイスラエルの政治には、非常時対応の大連立内閣成立を後押しするという、思わぬ影響を及ぼしました。

重なった三宗教の聖祭も直撃

奴隷の身分であったユダヤ人の集団がモーゼに率いられてエジプトを脱出するという、旧約聖書の出エジプト記にある故事にちなむ「過ぎ越し祭」は、ユダヤ人にとって最も重要な宗教行事の一つ。イスラエルでは祭りの一週間の初日を祭日にしており、今年は4月9日(8日夕からの一日)がその日でした。本来なら親族が集まって共に食卓につき、種無しパンなど言い伝えに従った食事をします。ところがコロナウイルスの感染拡大を防ぐため、政府が都市間どころか近所の家庭同士の行き来も厳しく規制しました。翌日は緩和されたものの、祭り明けの14日夕から16日夕まで再封鎖するという徹底ぶりでした。

一方、世界中のキリスト教徒にとって最も重要な、イエス・キリストの復活を祝う「復活祭」は、カトリックやプロテスタントにとっては4月12日、異なる暦で数えるギリシャ正教などの東方教



ラマダンの第2週、モスクで祈るパレスチナ人男性。(5月1日ガザ) 写真 al-monitor.com より転載

会では19日でした。毎年、盛大なミサが行われる エルサレム旧市街の聖墳墓教会も、ヨルダン川 西岸ベツレヘムにある聖降誕教会も、閉ざされま した。東方教会の場合、聖墳墓教会の聖なる火を 東方教会系の国々から聖職者が来て持ち帰る伝 統があるそうですが、イスラエル航空便が運休し たため各国が聖職者を乗せた特別便を飛ばして 持ち帰ったという様子が、19日のテレビに映し出 されていました。

さらに4月23日夕からは、イスラム教の聖なる月「ラマダン」が始まりました。30日にわたる断食月です。断食といっても、日の出から日没までの間は食べ物も飲み物も断つものの、日が暮れるとイフタールといって盛大な夕食をとります。断食月は肉の消費量がむしろ増えるとさえ言われるほどで、例年なら路上に並べられた机に人々が群がって一斉に食事をとるという光景が見られ

ます。しかし今年はほかのイスラム国同様、密集しての飲食は禁じられました。

パレスチナ自治区ではイスラエルの工場、養鶏場に働きに出かけた労働者の感染例などが報告されていましたが、感染者数約400人、死者3人(5月末現在)と爆発的な感染はなかったようです。とはいえ、難民キャンプのように人口が密集し、十分な水の供給がなく、医療設備も十分とはいえない地区で感染者が増えだしたらどうなるか、まだまだ油断はならないでしょう。

公約に背く政権選択の口実に

感染者数約17.000人、死者数284人(5月末 現在)を数えたイスラエルでは、3月上旬には海 外からの航空便が大きく減らされ、入国する人 は2週間の検疫隔離を強いられることになりまし た。外出が厳しく制限され、市民生活や経済を沈 み込ませたコロナウイルスですが、政治的には思 わぬインパクトを与えました。まず、汚職などの 罪で起訴されたネタニヤフ首相の公判が3月17 日に予定されていたのが、5月24日に延期されま した。10人以上の集会が禁止され、ショッピング モールやレストラン、ホテルが閉鎖されるなどの 状況下で決まったものです。新内閣をめぐる交渉 が難航する中、首相の犯罪に焦点が当たる場面 を、当面は免れることができたのですが、それど ころか、ウイルスと戦うために挙国一致体制を取 るという政治的妥協により、ネタニヤフ氏は首相 の座を維持することになったのです。

3月に投票された1年以内に3度目の総選挙では、右派与党連合がまたも国会議席の過半数を取れず、いったんは中道会派「青と白」代表のガンツ氏が、アラブ政党の支持も得て首相候補の指名を受けました。ところが、組閣してもアラブ政党は閣外協力で実質は少数内閣であるという弱みがあるうえ、コロナ騒ぎという非常事態の中で政争をしている場合かという議論が口実となって、ガンツ氏はネタニヤフ氏と妥協して第1党と

第2党の大連立内閣をつくるという選択をしたのでした。

選挙結果には劇的な変化なし

3月2日投票の選挙結果は次の通りでした(カッコ内は獲得議席数)。

第1党はリクード (36)、宗教政党シャス (9)、 ユダヤ教連合 (7)、右派連合 (6) ⇒以上が右派 与党連合で計58議席。第2党は青と白 (33)、中 道左派の労働党・メレツ (7)、右派イスラエル我 が家 (7)、アラブ統一会派 (15)。

ネタニヤフ首相を支持する連立与党はまたも、 組閣に十分な国会議席 (120) の過半数を得られ ませんでした。リブリン大統領はリクード・青と白 の大連立政権を期待していましたが、国会議員の うち与党以外の61議員がガンツ氏を首相候補に 推薦したため、ガンツ氏に組閣を指示しました。

とはいえ、かつて閣内にアラブ政党を取り込んだ政権はなく、今回もアラブ政党に望むのは閣外協力。それがなければ過半数に程遠いうえ、イスラエル我が家の主張はアラブと対立するものです。不安定な要素いっぱいの少数連立内閣の選択に迷った末、ガンツ氏は3月20日、ついにネタニヤフ氏と大連立内閣をつくることに合意しました。それまで一貫して「汚職で訴追されているネタニヤフ氏と組むことはない」と言ってきたのに、です。「裏切りだ」という会派内からの猛反発には、さらなる総選挙を避けるために、そして何よりコロナ禍という非常事態に対処するためには「個人的思惑は脇に置いて」と弁明したのでした。



「青と白」 党首のB.ガンツ氏 (左) とイスラエル首相B.ネタニヤフ氏

写真 edition.cnn.com より転載

入植地などの併合強行の恐れ

ガンツ氏の苦渋の決断にもかかわらずネタニヤフ氏は、組閣期限の4月15日ぎりぎりまで注文をつけて「また選挙か」という瀬戸際まで追い込んでいました。実は大連立交渉が最終局面を迎えた4月13日に行われた世論調査で、いま選挙をしたらリクードは40議席を獲得し、右派与党連合が計64議席になるという結果が報じられたのです。ガンツ氏がネタニヤフ首相との連立に同意したことで青と白が分裂したこともあり、ネタニヤフ氏は選挙になっても構わないという姿勢で、連立交渉を優位に運んだといえます。

5月17日にようやく発足した非常時内閣を構成する連立与党(カッコ内は議席数)は、リクード(35)、青と白(分裂して15)、宗教政党シャス(9)、ユダヤ教連合(7)、労働党(2=メレツは離脱)、国家の道(2=青と白から分離)、ゲシェル(1=労働党から分離)、ユダヤの家(1=右派連合から分離)の8会派(合計72)。

そして、合意が伝えられる連立条件は

- ●政権の期間は3年とし最初の1年半はネタニヤフ氏が首相を、ガンツ氏が副首相を務める
- ●後の1年半は立場を入れ替える
- ●6ヶ月間はコロナ対策以外の法案は、合意がない限り提出しない

などです。

イスラエルの法律には、首相が在職している限り、起訴されていても罷免できる規定がありません。連立内閣の発足直前に、起訴された者が首相を務めるのは違法だという司法判断を求める訴えが出されましたが、最高裁は訴えを却下しました。汚職で起訴されながら首相になることには疑問があるとしながらも、「組閣を妨げる法的根拠は見いだせない」とせざるを得なかったのです。就任直後の5月24日、ネタニヤフ氏が汚職容疑で起訴された裁判の初公判が開かれ、現職首相が被告として出廷するという事態となりました。

この連立政権の誕生で最も問題となりそうな



ネタニヤフ首相と政府への抗議集会。参加の人々は「ソーシャル・ ディスタンス」をとっている。 写真 aliazeera より転載

のは、ネタニヤフ首相が選挙中から示唆してきた、ヨルダン川西岸のユダヤ人入植地やパレスチナ自治区のヨルダンとの境界を遮断するヨルダン渓谷の併合を推し進めそうなことです。パレスチナとの和平交渉を主張してきたガンツ氏が入閣し、国防相という要職を兼ねるにもかかわらず、実行へ動き出す可能性が高いとみられています。前回お伝えしたように、トランプ米大統領が今年1月に発表した中東和平案では、西岸の入植地などにイスラエルの主権を認める、つまり併合することを容認する、としています。発表の日にネタニヤフ首相と共にワシントンに呼ばれていたガンツ氏も、この和平案に基本的に賛成しており、併合方針は連立合意にもうたわれているということです。

政敵に組閣の主導権を握られかけながら、結局はネタニヤフ首相の実質的な勝利に終わった大連立劇。パレスチナ自治政府はシュタイエ首相が「領土併合内閣であり、二国家共存による解決の終わりを意味する」と、新政権を強く批判。アッバス議長は、併合すれば治安維持などについてイスラエル、米国と交わした合意を再考すると表明しました。



街で出会った子どもたち

ヨルダン川西岸地区のラマッラでは、子どもたちや、家族ぐるみのいろいろなイベントが行われて、とても賑やか。しかし緊急事態宣言、外出禁止令が出されると街から人影が消えました。







▲名誉殺人を免れた飼い葉桶乳児院の幼児たち。コロナ禍でも帰る家のない彼らは、施設の庭で元気いっぱい遊んでいます。













▲外出禁止令で人影の途絶えたラマッラの町。(右も)

写真撮影 Sr.ドニーズ (飼い葉桶乳児院)、Sr. ララ (エッフェタ聴覚障害児学院)、ダリーヌ・ラマ

エルサレム便り クレール・ガザウィ

エルサレム在住の音楽教師・「平和の架け橋プロジェクト」に 2009年から4回参加

エルサレムでも、非常に多くの人々が新型コロナウイルスの影響を受けています。

ヤイシュ家(仮名)は新型コロナウイルスが広がる 前は貧しくても何とか生活していくことができてい ました。父親はおみやげ店を営み、母親は家政婦と して働いていました。6年生から幼稚園生まで3人の 子ども(男の子2人、女の子1人)がいます。

パンデミックが起きてすぐ、そして最も深刻な影響を受けたのは観光の分野です。ほとんど父親の収入に頼っていたのに、みやげ店は休業せざるを得ませんでした。休業補償金はいつ支払われるか分かり

ません。観光業で働く人があまりにも多く、支払いに多くの時間がかかるからです。収入ゼロ(*注:現地では将来のための貯蓄という習慣も余裕もありません)で、3人の子どもを抱えて家族をどのように養うのか、その困難は想像に難くありません。日々の必要、食事、教育費、特に現在休校なので、学校が始めたオンライン授業のためのタブレット端末など。

長男は、不安いっぱいの状況の中で、精神的に大きな影響を受けています。夜きちんと睡眠を取ることができず、やっと眠ると悪夢に悩まされ、昼間も落ち着くことができません。どうすることもできない両親は、心配のあまり学校のソーシャル・ワーカーに相談に来ました。幸い彼女は同年齢の子どもを持っているので、ヤイシュ家とその長男を助けることができると思います。

他にも様々なケースが数え切れないほどあります。